

益城町安全・安心まちづくり宣言

益城町

益城町議会

平成二十八年四月十四日と十六日の二度にわたり、震度七の大地震が益城町を襲い、かけがえない命や財産そして美しいふるさとを奪いました。

復興将来像として「住み続けたいまち、次世代に継承したいまち」を掲げ、同年十二月に益城町復興計画を策定し、町民・議会・町が一丸となり、全国から温かいご支援をいただきながら、復旧と復興に取り組んでまいりました。

今後も取り組むべき課題はあるものの、インフラなどの復旧をはじめ、生活再建に必要な機能が整いつつあります。また、避難地・避難路の整備に加え、町中心部では土地区画整理事業をはじめとする将来を見据えた新たなまちづくりも着実に歩みを進めています。災害発生から五年の節目に、災害で得た多くの教訓を風化させることなく、永く後世に継承するとともに、災害に強いまち、安全・安心なまちを目指すため、次のおり取り組むことを宣言します。

一、町民一人ひとりが主体者であることを認識し、町民・議会・町が一体となり安全・安心なまちづくりを推進します

一、自助・共助・公助の役割分担のもと、地域や自主防災組織、防災士と連携し、災害時の対応体制を構築します

一、身近な避難場所や大規模災害時にも機能する防災拠点を整備します

一、災害により甚大な被害が生じた被災地を支援する体制を構築します

一、災害の経験や教訓を継承するとともに、全国へ発信し、日本の防災・減災に貢献します



町・町議会を代表して宣言する大塚ひろさんと川前岳士さん(左)と

平成 28 年熊本地震

追悼献花台

4月14～16日の期間、交流情報センターミナテラスに「平成28年熊本地震追悼献花台」が設置されました。

新型コロナウイルスの影響で、「平成28年熊本地震益城町追悼式」への一般の人の参列をご遠慮いただいたこともあり、熊本地震で犠牲になられた方々に追悼の意をささげるために献花をしようと、多くの人が訪れました。期間中、延べ166人が献花を行い、犠牲者の御霊の平安を祈りました。



ミナテラスのロビーに設置された献花台。



包括交流連携協定を結んでいる奈良県田原本町からも花が届きました。